

校友会 史跡クラブ 行程表

※ 今回の「日光」行は、校友会イベントとの共催で行います。

日程 9月11日（火） 《雨天決行》
活動場所 日光東照宮 （バスをチャーターして行きます）
集合時間 7時50分（時間厳守） 集合場所 ウエスタ川越前
費用概算 ￥6,500 （交通費、拝観料、昼食代含む）
（今回はチャーターバスで行くため参加人数により費用が多少変動する可能性があります）
行程概要 8:00 ウエスタ川越 ～ 10:00 日光IC
関越自動車道・圏央道・東北自動車道・日光宇都宮道路
（午前）憾満ヶ淵 観光
（昼食）磐梯日光店 予約済み
（午後）東照宮 拝観
ゆば工場見学（引上げ湯葉体験、試食）
16:00 日光IC ～ 18:00 ウエスタ川越

●憾満ヶ淵

日光男体山より噴出した溶岩によって、清流大谷川に出来た奇勝。川岸に巨岩があり、不動明王の石像が安置されていたことから、不動明王の真言の末尾の「かんまん」の名が付いたと言われている。南岸には数えるたびに数が違うといういわれから化け地蔵と呼ばれる約70体の地蔵群がある。 <不動明王真言> 「のうまく・さんまんだばざらだん・せんだん・まかろしゃだそわたや・うんたらた・かんまん」

●日光東照宮

日光東照宮については、見どころも数多くあるがあまりにも著名であるため、由来についてだけ簡単に記載しておきます。

元和元年（1616）徳川家康は駿府にて死去した。遺骸はただちに久能山に葬られ、久能山東照宮が造られた。翌元和3年（1617）家康の遺命によって、下野国日光に社殿を造り改葬された。日光が選ばれた理由としては、諸説あるが、日光開山は古く天平神護2年（766）とされていて、その後源頼朝が母方の熱田大宮司家出身者を別当に据えて以来鎌倉幕府の庇護のもと東国の宗教的権威となっていたこともあると考えられている。また改葬にあたり吉田神道（大明神）と山王神道（大権現）のどちらで祀るかで論争となったが、天海僧正の主張で山王神道が採用され、朝廷から東照大権現の神号と正一位の位階の追贈を受け祀られることになった。寛永11年（1634）に3代将軍家光が日光社参し、今日見られるような荘厳な社殿への大規模改築が行われた。陽明門もこの寛永の大造替の時に造営されたもので、建物全体がおびただしい数の極彩色の彫刻で覆われ、一日中見ても飽きないことから「日暮御門」とも言われている。

※ 持ち物等歩き易い靴・健康保険証・雨具・カメラ・飲料・スイカ/パスモ
連絡先 丸田純一